

南足柄市立福沢小学校

研究テーマ：「主体的な学びを育てる授業」

～すべての子どもが学びの深まりを実感する授業づくり～

1 実践の目的

昨年度までの研究において、児童が授業の導入段階で課題を的確に捉えたり、学習の方向性を見出したりすること、また自分の考えを形成することにおいて、一定の成果が見られた。今年度はさらに、自分の考えを伝え合い、互いに支え合う「学び合い」を通して学びを深め、児童がその実感をもてるようにすることを柱に取り組んでいる。また、自分の考えの変容を自覚させる「振り返り」を充実させることで、学びの深まりを継続的に実感できるようにしている。これらの取組は、市の研究が掲げる「探究型授業」において求められる基礎的な力を確かなものにしていくことにつながると考えている。

2 実践の内容

1 探究型授業の推進に向けて

(1) 数学的な見方・考え方を働かせた探究的な学びの充実

授業を《①課題の把握→②自力解決→③「学び合い」→④振り返り》という基本的な流れを基盤に構成した。これにより、児童が安心して学習に向かい、探究的な学びに向かうことができた。昨年度までの研究では、①課題の把握から②自力解決にかけて一定の成果があったと考えている。一方で、知識や技能が一面的な理解にとどまったり、学習場面で十分に活用できなかったりする本校の児童の課題も見られる。そのため③「学び合い」の場面では、既習事項

を活用し、図や表、グラフ、式や言葉を用いた多様な表現を促すとともに、友だちと比較・交流しながら問題解決のよさを実感できるように工夫した。また学習内容を日常生活の事象と関連付けて考えられるよう、具体物の操作や体験活動、考えを説明する活動を充実させてきた。さらに④振り返りでは、めあてに立ち返って学習の過程を振り返り、児童自身が学びの深まりを実感できるように位置付けるようにしてきた。

(2) 「学び合い」の充実

全体での話し合い、グループ学習やペア学習など、さまざまな「学び合い」の場面を、学習内容や児童の実態に合わせて設定し、十分な時間の保障をしながら行えるようにした。知識・技能を活用しながら、考えを伝え合う中で友だちの考えを知ったり、自分との違いに気付いたり、よりよい課題解決や合意形成を行う場として生かした。友だちやクラスの仲間と話し合い、支え合う活動によって学びに向かう意欲の高まりにもつながるようにした。

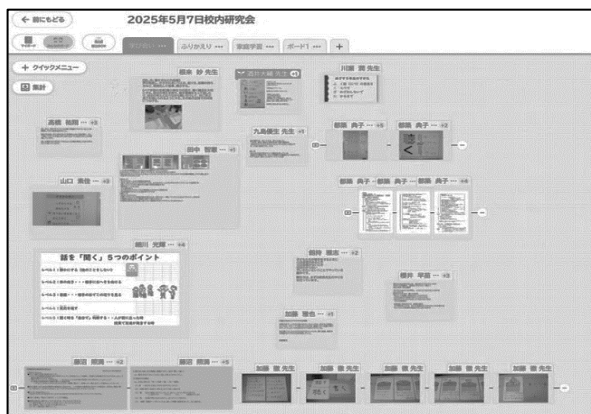
(3) 振り返りの充実

授業の終末に、振り返り活動を行った。発達段階に応じた方法を取り、継続的に行うことで、その日の学習の定着や考えの再構成を図ったり、今後の学習に生かしたりすることができるようにした。

その際、単元のキーワードや、「学びの深まり」につながる視点を提示して行った。

(4) 「学びの深まり」に向けた職員研修

児童の学びを充実させていくために、「学び合い」や「振り返り」を行う時の教師の働きかけや声かけ、掲示資料の工夫などを職員同士で共有し合う研修を行った。授業デザインや児童理解の視点を深めることにつながった。



Okurinko・プラスで各自の資料を共有した画面の様子

また、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた研修会を夏期休業中に実施した。本校児童の結果を踏まえながら実際に問題を解き、課題として挙げられた設問について取り上げ、正答するために必要な力や指導の工夫について協議する機会を設けた。調査を児童の学力についての一つの客観的な指標としてとらえ、学習内容の系統性を意識した指導や、出題の意図も踏まえながら授業改善することの意義、今後の見通しについて、職員同士で共有することができた。

3 実践の成果と課題

課題の把握・自力解決での取組を生かして、「学び合い」の充実を図ることができた。既習事項を活用し、図や表、グラフ、式や言葉を組み合わせながら考えを表現することや、友だちの考えとの比較や交流によって自らの考えを見直したり、多面的な視点を獲得したりする姿が見られた。このことは、南足柄市学びづくり研究に関する実態調査（4月・12月実施）においても、話し合いを通して、新たな考え方に気

が付くことができる児童数の増加に表れている。また、振り返りをとおして、授業の終末にめあてに立ち返り、自分の考えの変容を自覚する取組を継続した。そのことが学びの定着と新たな問いの発見などにつながられる児童も見られた。

4 今後の展開

「学び合い」の質のさらなる向上をめざしたい。「聞き合い」「問い返し」「根拠を明らかにした説明」などを重視し、「学び合い」が形式にとどまらず深い理解につながるような授業デザインをしていきたい。そして、自分の考えの変容を、振り返りをとおして実感できるものにしていきたい。本時の1時間だけでなく、単元やまとまりの中で「自分の学びの変化」を可視化し、児童が学びの成長を実感できるように振り返りを生かすことなどが考えられる。

また、多様な子どもの実態から、すべての児童が学びの深まりを実感していくための手立てとして、児童が自分のめあてをもち、安心して学習に向かいながら、考えを深めつつ、友達とつながることで理解を広げられる方策も検討していく。その際、ICT活用や課題設定なども工夫しながら取り組みたい。そのために、教師自身の「学び合い」の充実が必要になる。職員研修などを継続して行い、具体的な工夫を蓄積・共有していく。また、全国学力・学習状況調査など客観データを活用し、本校児童の課題分析をもとに、授業改善を推進したい。そして、達成感や自己有用感を育むために、授業に表れる「子どもの事実」を丁寧に見取り、主体的な学びの姿を的確に捉えられるようにしていく。その姿は、児童が将来の社会を生き抜く力へとつながっていくと考える。